

令和7年度

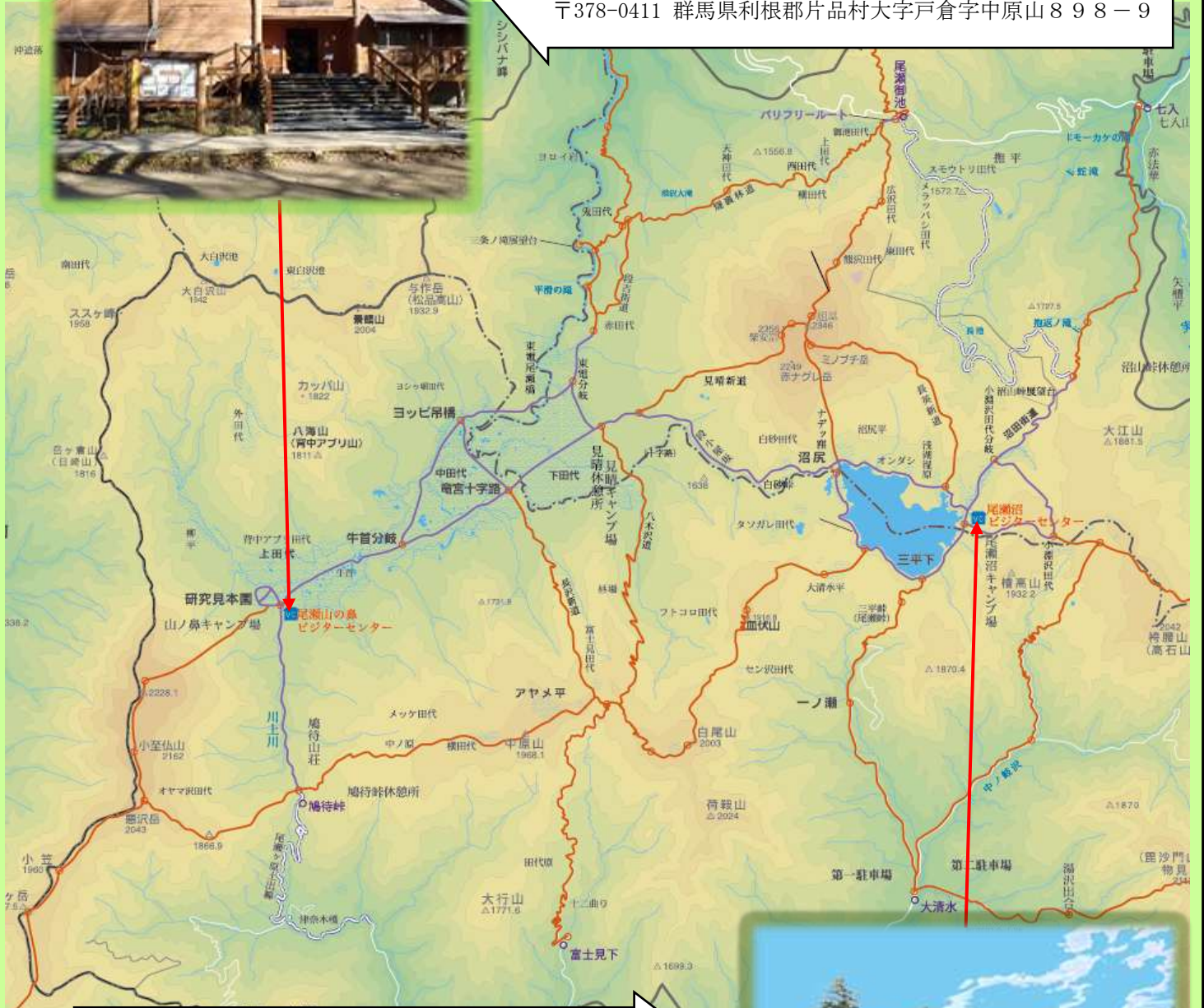
尾瀬山の鼻・尾瀬沼 ビジターセンター運営記録

施設位置図		巻末資料	
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録	… 1	ビジターセンター傷病者対応事例	…26
「尾瀬ボランティア」	…11	尾瀬のできごとをふりかえる	…27
尾瀬沼ビジターセンター運営記録	…12	尾瀬保護財団の沿革と概要	…31
「尾瀬自然解説ガイド」	…22	ビジターセンターの自然体験プログラム	
「一般の方から寄せられた声」	…24		

ビジターセンター位置図



尾瀬山の鼻ビジターセンター
〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山 8 9 8 - 9



尾瀬沼ビジターセンター
〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳 1 番地



令和7年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻VC）の管理運営を平成8年度から受託しています。

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：令和7年4月14日(月)～令和7年11月5日(月)（206日間）
- (2) 開所期間：令和7年5月13日(火)～令和7年10月31日(火)（172日間）
- (3) 休館日：なし
 - ・4月14日～5月12日 除雪、展示等の開設準備、公衆トイレ管理。
 - ・11月1日～11月5日は公衆トイレ管理、閉設作業等。

2. 取扱時間

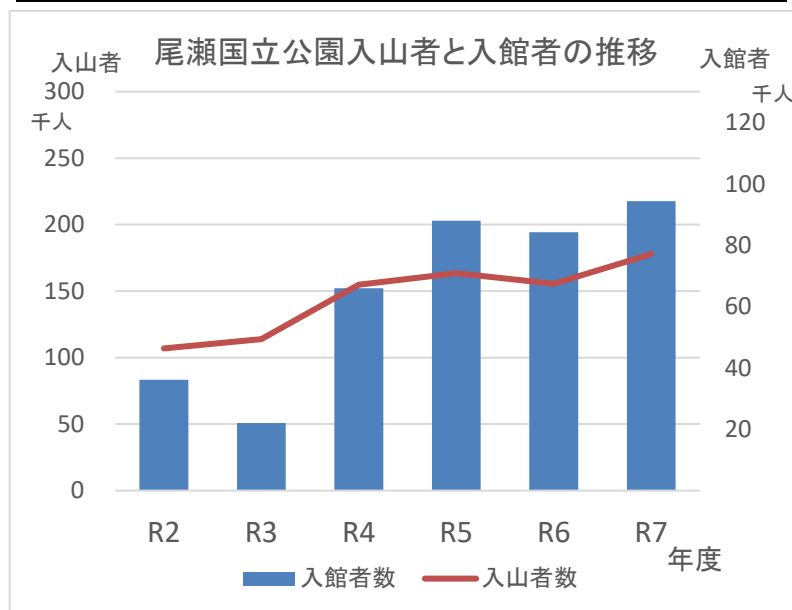
- (1) 施設開館 7:00～16:00
※10/20～10/31の間は7:30～15:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00
※窓口案内については利用者の状況に応じて柔軟に対応しています。

3. 入館者数

94,350人 ※尾瀬国立公園入山者 171,821人

過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数 (単位:人)

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
令和6年度	84,167	155,630
令和5年度	87,966	163,499
令和4年度	65,897	154,724
令和3年度	22,013	113,795
令和2年度	36,156	106,922



4. 職員構成

(1) 人数 8人

(2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
所長	西澤政春	全体統括
副所長	新保正利	統括補助、物輸関係、燃料管理、シカ・クマ対策
副所長	渡辺直子	統括補助、情報収集発信管理、共同生活管理、館内展示関係
管理員	天津祐子	消耗品管理、ボランティア関係、イベント記録管理
管理員	川畑修	月次報告管理、登山道整備、気象機器管理
管理員	新倉聡	傷病記録、公衆トイレ関係、備品設備管理
管理員	野島慶太	産廃管理、日次報告書管理
管理員	坂本美香	遺失物管理、設備清掃関係

※情報収集、自然解説、窓口対応等は全員で実施

II 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻VC内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 令和7年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライド	環境学習 ミニガイドツアー	団体 レクチャー
参加者数 単位:人	615(538)	1,542(1,424)	119(118)	236(259)
実施回数 単位:回	49(49)	49(49)	44(42)	8(8)

※ 表中カッコは、前年度実績

1. 自然観察会(写真1)

土日、祝日を中心に、尾瀬植物研究見本園をフィールドとして実施しました。

- ① 実施場所：尾瀬植物研究見本園
- ② 実施時間：7:15～8:00
- ③ 担当者：山の鼻VC職員

2. スライドレクチャー(写真2)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

- ① 実施場所：山の鼻VC内のレクチャールーム
- ② 実施時間：18:00～18:45
- ③ 担当者：山の鼻VC職員

3. 環境学習ミニガイドツアー

山の鼻VC周辺での解説者(ガイド)付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー(環境学習ミニガイドツアー)を実施しました。

- ① 実施日：5/13から10/13までの期間

- ② 実施場所：山の鼻VC周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
- ③ 実施時間：一行程あたり 60 分程度
- ④ 担当者：山の鼻VC職員及び尾瀬ボランティア

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドレクチャーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

館内展示物の利用案内を含めた解説を、来訪者の依頼に応じて職員が実施しました。

6. 展示

- ① 植物の開花状況、鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの最新情報。
- ② VC建物の内外に天候・最高最低気温・各種注意報等の気象情報。
- ③ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子。
- ④ 写真を使った時節ごとの観察ポイントの紹介。
- ⑤ バス・電車など公共交通機関の発着時刻等の情報。
- ⑥ ニホンジカの生態や尾瀬への影響とその対策等。合わせて頭骨、毛皮を触れられるよう展示。
- ⑦ 野鳥コーナーに鳴き声タッチペン設置し、写真にセンサーを貼ることで視覚聴覚の両方でわかりやすい展示。
- ⑧ ツキノワグマの生態や目撃情報、対策等。合わせて頭骨、毛皮を触れられるよう展示。
- ⑨ 尾瀬国立公園のレリーフマップ。
- ⑩ 尾瀬のコンテンツ別(虫・鳥・両生類等)の写真と解説のコーナー。
- ⑪ 触れられる展示(ツキノワグマ、野ウサギ・キツネの毛皮)の他、「尾瀬の生き物たち」として剥製コーナーを展開。
- ⑫ VRによる「尾瀬散策」。
- ⑬ 尾瀬保護財団としてのイベント情報。

その他、様々な情報を常により良いレイアウトで行い、花の情報用写真の更新なども常時行いました。

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤマ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

Ⅲ. その他の公園施設等の維持管理（写真3）

尾瀬保護財団では、山の鼻VCの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成8年度から管理受託しています。

1. 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

①. 供用期間

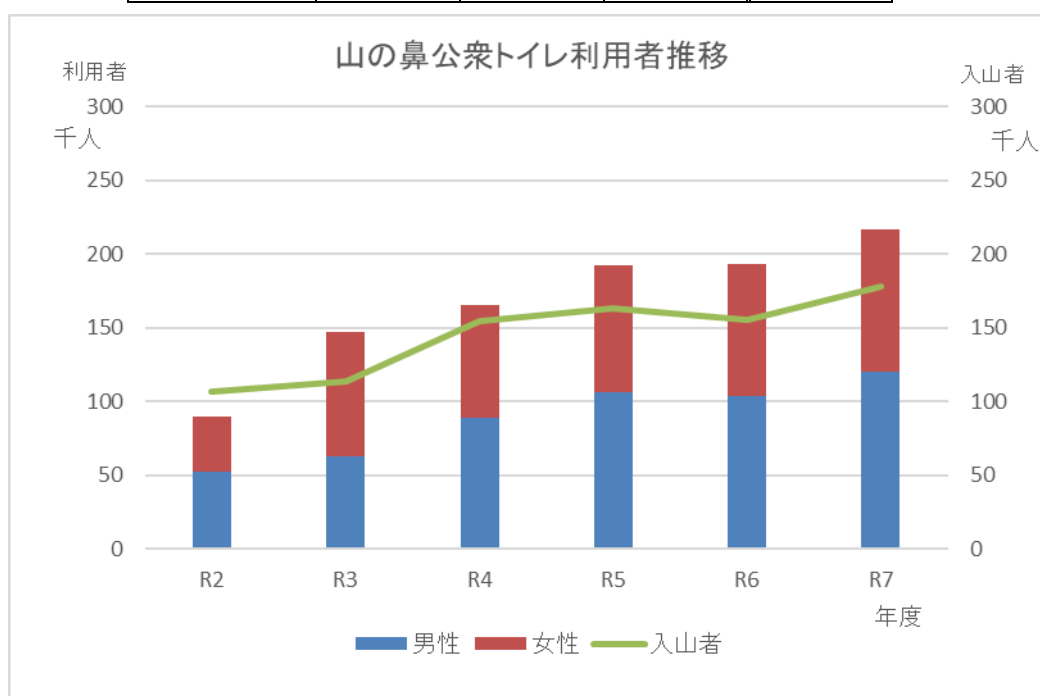
令和7年4月19日～令和7年11月4日（200日間）

※4月19日～5月12日、10月27日～11月4日の間は男女共用として開設

②. 利用者数(単位：人)

令和7年度の山の鼻公衆トイレ利用者数は、前年度比112.2%

年度	男性	女性	計	入山者
令和7年度	119,936	96,494	216,430	171,821
令和6年度	103,582	89,363	192,945	155,630
令和5年度	106,182	86,334	192,516	163,499
令和4年度	89,023	76,642	165,665	154,724
令和3年度	54,715	42,144	96,859	113,795
令和2年度	52,605	37,080	89,685	106,922



(7) 清掃、点検

1日1回の定時清掃のほか、9:00、11:00の定時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

(イ) 点検

清掃、定時点検の他、繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

(ウ) 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

(イ) 啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

2. 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。
職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

3. 木道、登山道（写真3）

群馬県管理道のうち、老朽化等により通行に支障がある箇所について、状況を確認しながら補修を行いました。また、登山道の危険個所に注意看板を設置しました。

①. 横田代地区

通行時の危険箇所の補修及び、滑り止めの栈木を要所に設置しました。

②. 八木沢道

橋板流失のため通行止め看板を設置しました。

③. 木道冠水対応

通行に支障がでる冠水時、木道を通行止めし入山者に注意喚起しました。

IV. 植生復元等の事業の実施

1. 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成16～18年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

①. 実施場所：横田代 標高約1,880m付近

②. 実施回数：巡回時随時

③. 実施内容：平成18年度に設置した観察区(5区)について経過観察としての写真撮影

2. 至仏山保全対策の各種取り組み（写真4）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としているため、注意看板の設置など啓発活動を実施しました。

山の鼻V Cでは各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行い、東面登山道の踏み出し防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、財団事務局員とビジターセンター勤務者で作業を実施しました。

V. 巡回活動の実施

歩道の安全確認、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

1. 巡回のエリアと頻度

①. 竜宮方面 : 1回/週

②. 見晴方面 : 1回/週

③. 赤田代方面 : 1回/週

④. 三条ノ滝方面 : 2回/月

⑤. 至仏山方面 : 2回/月

⑥. 長沢道～アヤマ平方面 : 1回/月

⑦. 八木沢道～アヤマ平方面 : 1回/月

VI. その他

1. 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。また、寄付のお礼として自作の缶バッジを作成し、随時寄付のお願いを掲示しました。

2. 山の鼻ビジターセンターの開所 5月13日 (写真5)

本年度の山の鼻VCの開所式は、昨年と同様近隣の関係者のみで行いました。

3. 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズン当初から入山口啓発活動や、シーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地での自然解説ボランティア活動の支援を行いました。(尾瀬ボランティアについては、P.11のコラムを参照してください)

4. 傷病事故の対応 (写真6)

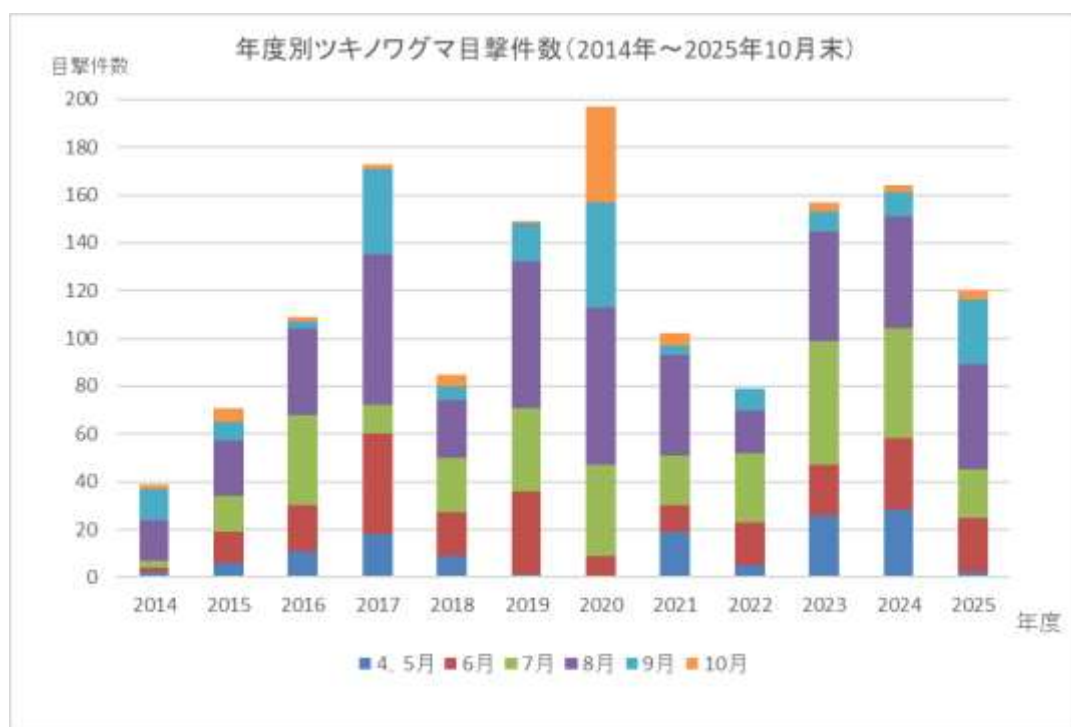
山の鼻VCで扱った今年度の傷病事故件数は38件ありました。山の鼻VC窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として協力した件数が含まれます。※H18年度(9月中旬)よりAED(自動体外式除細動器)を山の鼻VCに設置。

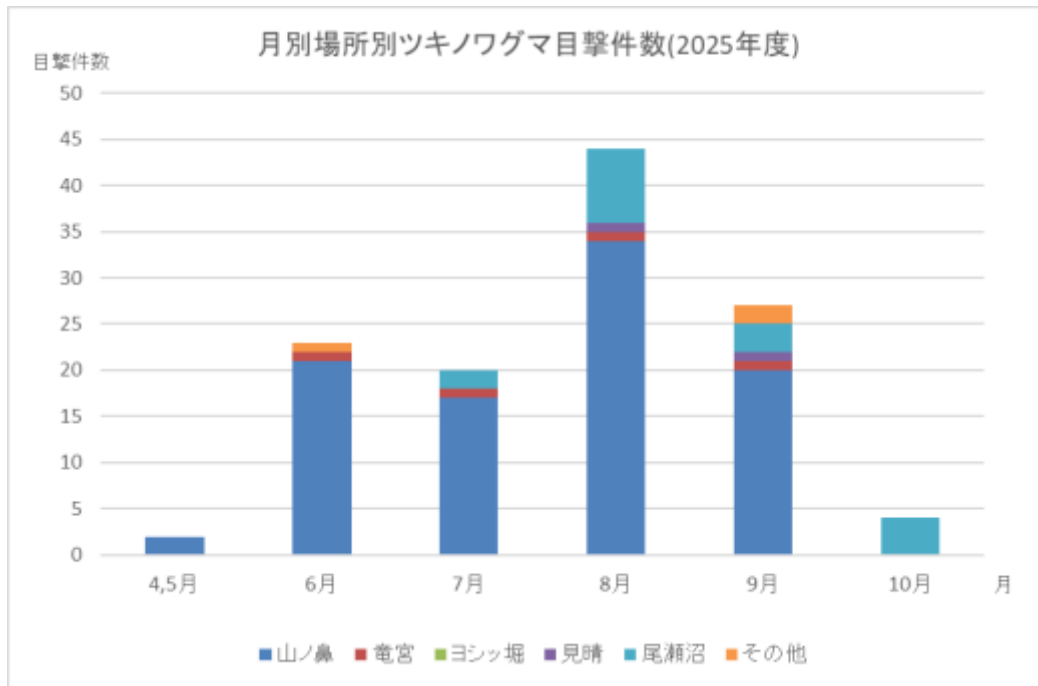
尾瀬ヶ原地区(群馬県側)救助体制の流れを整理し、迅速な救助体制が整えられるよう準備しています。(救急連絡系統図、対応等作成)(巻末資料1「傷病者対応事例」もあわせてご覧ください)

5. ツキノワグマ対策 (写真7)

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は令和7年5月11日にツキノワグマ対策研修を受講し、ツキノワグマに対する知識と対策について準備を進めました。

また、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葎などの刈払い作業等の他、巡視や追い払いを行うとともに、ミズバショウの結実時期である7月中旬から9月中旬まで研究見本園の一部を除き閉鎖し、入山者の安全を図りました。



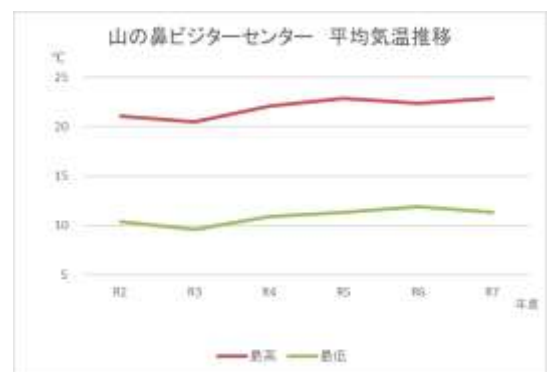
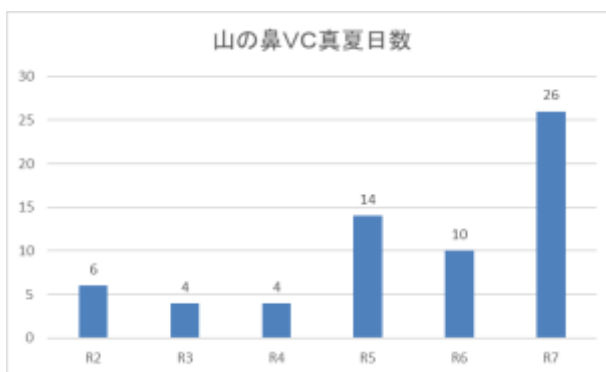


6. ゴミの計量及び域外搬出 (写真8)

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻VCから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は480kg（前年度411kg）となりました。

7. 定時気象観測

5月13日～10月30日までの毎日、山の鼻地区に設置した気象観測機器で最高気温・最低気温などの観測を行いました。R7年は30℃を超える真夏日が26日間と昨年の倍以上になり、平均気温も上がりました。



8. ニホンジカ対策 (写真9)

深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を受け設置した、研究見本園の植生保護柵について、定期的な巡視・点検を実施しました。

また、群馬県尾瀬保全推進室の依頼を受け、シラネアオイ自生箇所植生保護柵を設置しました。



(写真1)

【自然観察会】

土日、祝日を中心に、研究見本園をフィールドとして実施。

時間：7:15～8:00



(写真2)

【スライドレクチャー】

土日、祝日の前夜を中心に、山の鼻VCのレクチャールームにて実施。

時間 18:00～18:45



(写真3)

【木道冠水対応】

原の川上川橋周辺が冠水。通行止め看板設置し入山者を誘導



(写真4)

【至仏山保全対策の取組】

踏み出し防止柵の設置
至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施。(写真は至仏山東面登山道)



(写真5)

【尾瀬山の鼻V C開所式】

5月13日。近隣の関係者を招待して開催。(山V C前)



(写真6)

【傷病事故の対応】

傷病者発生のため消防に救急要請。防災ヘリコプターへの救助ポイント指示、研究見本園の通行止めなど救助作業を補助。(研究見本園)

(写真7)

【ツキノワグマ対策の取組】

人とツキノワグマが不意に遭遇する危険を減らすため、刈り払いを実施(研究見本園)。



(写真8)

【廃棄物処理】

可燃物・不燃物の、ヘリによる尾瀬域外搬出のため、分別及び梱包作業。



(写真9)

【ニホンジカ対策の取組】

植生保護柵の設置及び撤去。(シラネアオイ)



尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは、尾瀬の貴重な自然を大切に保護し、将来へと引き継いでいくため、利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から **266** 人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けて自然保護的な活動と、自然解説的な活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（自然保護的活動）

入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺等での美化巡回
外来植物除去作業、シカ柵設置・撤去作業 等

（自然解説的活動）

お話しボランティア活動（定点解説）
環境学習ミニガイドツアー 等

現在の登録状況

266 人（令和7年12月31日現在）

内訳： **15** 都府県（群馬県 **115** 人、東京都 **37** 人、埼玉県 **32** 人、神奈川県 **20** 人、千葉県 **16** 人他）
平均年齢 **64.0** 歳（最年長 **95** 歳、最年少 **28** 歳）

尾瀬ボランティアの取り組み

令和7年度の活動 ・ 入山口啓発 11日（参加者延べ27人）
・ ありがとう尾瀬清掃活動 参加者29人
・ 自主ボランティア活動 50日

年度	主な取組状況
平成8	尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
平成9	鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
平成10	至仏山登山道整備（以後継続）
〃	沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
平成11	植生復元開始（平成15年度までは至仏山、16～18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22～27年度は至仏山で実施）
〃	啓発活動従事者講習会
〃	尾瀬ボランティア帽子配布
平成12	県道沼田檜枝岐線の植生回復作業（～平成13年度）
〃	お話しボランティア用の旗作成
平成13	鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
平成16	各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
平成18	至仏山巡回ボランティア（以降「尾瀬巡回清掃」として平成26年度まで実施）
〃	ごみ清掃ボランティア（山ノ鼻地区で実施。19年度は沼尻地区で実施）
平成19	ビジターセンター支援ボランティア活動開始
平成29	三平峠付近での栈木打ちボランティア活動開始
平成30	鳩待峠での群馬県看板の色塗作業の実施
〃	大江湿原でのシカ柵設置・撤去補助作業開始
令和3	研究見本園でのシカ柵撤去補助作業開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

令和7年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成8年度から受託しています。
(但し、平成26年度を除く。)

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：令和7年5月9日(金)～令和7年11月1日(土) (177日間)
 - (2) 開所期間：令和7年5月13日(火)～令和7年10月31日(金) (172日間)
- ※5月9日～5月12日は開所準備等、11月1日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

- (1) 施設開館 7:30～16:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

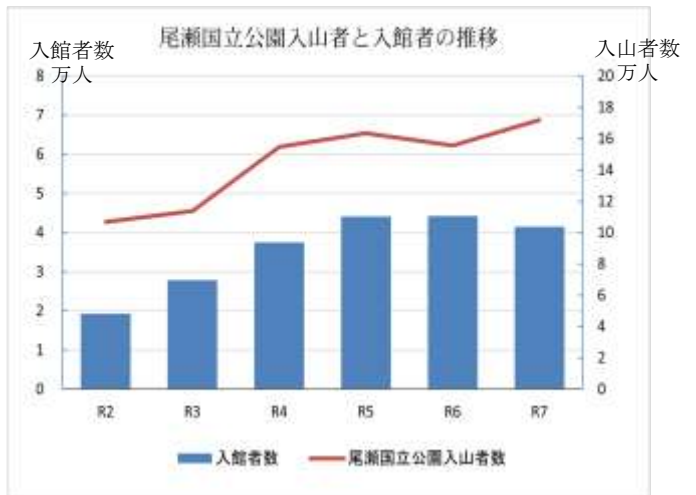
3. 入館者数

41,568人

※参考(尾瀬国立公園入山者 171,821人)
過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
令和6年度	44,261	(155,630)
令和5年度	44,177	(163,499)
令和4年度	37,472	(154,724)
令和3年度	27,824	(113,795)
令和2年度	19,293	(106,922)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 8人
- (2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
責任者	馬場大祐	全体統括、事務局調整、勤務・休暇管理、金銭出納簿、ヘリ対応
副責任者	阪路善彦	統括補助、月報報告、SNS発信、用品管理
副責任者	八幡直樹	拾得物管理、アンケート管理、イベント企画、公衆トイレ管理
管理員	玉田英司	団体レクチャー、ボランティア支援、食事管理
管理員	大内梨江子	クマ・シカ対応、収入金、機関誌、イベント企画、
管理員	岡本早智子	展示記録、情報発信、日誌管理、植生復元
管理員	横地美智子	電話対応記録、入館者数、回覧物管理、ゴミ管理
管理員	徳光伸夫	窓口対応、燃料管理、傷病記録、パンフレット管理

II. 自然解説事業等

利用者に向けて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 令和7年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント			見晴イベント	団体レクチャー
		スライドショー	星空観察会	その他		
参加者数(人) (前年度)	895 (1,138)	1,512 (1,457)	64 (249)	138 (830)	369 (183)	369 (371)
実施回数(回) (前年度)	201 (400)	43 (53)	6 (11)	3 (27)	10 (10)	14 (13)

※1 表中カッコは、前年度の数值。

※2 自然観察会には、尾瀬を感じるミニツアー、朝イチ観察会、尾瀬 de 早起き野鳥観察会を含む。

※3 夜のイベント（その他）には、ナイトハイク、トークショー「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」を含む。

※4 見晴休憩所が閉鎖中なので、見晴休憩所を使わない形で見晴ナイトハイクと見晴スライドショーを実施しました。

1. 自然観察会（写真1）

(1) 尾瀬を感じるミニツアー

- ①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：毎日午前 9:00～9:45、午後 12:30～13:15（午後については繁忙期のみ実施）
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 朝イチ観察会

- ①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：土日祝日の朝 7:30～8:15
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(3) 尾瀬 de 早起き野鳥観察会

- ①. 実施場所：尾瀬沼第二展望台
- ②. 実施日：6月22日（日）5:00～8:00
- ③. 担当者：福島県尾瀬保護調査会 猪狩先生

2. 夜のイベント

(1) スライドショー（写真2）

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日：土日及び祝日の前夜 19:00～19:45
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 星空観察会（写真3）

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：8月15日（金）、16日（土）、22日（金）、23日（土） 夜 19:30～20:15
10月17日（金）、18日（土） 夜 19:00～19:45
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(3) ナイトハイク（写真4）

- ①. 実施場所：大江湿原と浅湖湿原
- ②. 実施時間：8月29日（金）、30日（土） 19:00～20:00
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(3) トークショー「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」（写真5）

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施時間：9月18日（日） 19:00～19:45
- ③. 講師：（歩荷）五十嵐寛明さん、萩原雅人さん

4. 見晴イベント（写真6）

(1) 見晴ナイトハイク（見晴スライドショー）

見晴地区から尾瀬ヶ原に出ると空を遮るものがなく、星空観察に好適です。満天の星とともに尾瀬の魅力を発見してもらうために、このイベントを開催しました。荒天等の場合は、見晴スライドショーに変更しました。

- ①. 実施場所：見晴地区周辺
- ②. 実施時間：6月13日（金）、27日（金）、7月11日（金）、18日（金）、8月8日（金）、22日（金）、9月5日（金）、26日（金）、10月3日、17日（金） 19:00～19:45
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

5. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

6. ビデオ上映

レクチャールームにて尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」（約18分）や「尾瀬国立公園の誕生」（約18分）などのビデオを随時上映しました。

7. 館内解説

VC開館時間中は、展示室内に人員を配置し、随時館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

8. 常時展示

① 尾瀬国立公園について	⑨ 尾瀬の歴史
② 尾瀬の成り立ち	⑩ 尾瀬の自然環境を守る取り組み
③ 湿原と泥炭	⑪ 立体地図
④ 尾瀬の花	⑫ マナー・禁止事項
⑤ 尾瀬の野鳥	⑬ コースタイム・天気予報
⑥ 尾瀬の昆虫・両生類・魚類	⑭ 尾瀬に生息する動物たち (毛皮・剥製展示)
⑦ 尾瀬の哺乳類・絵本コーナー	⑮ 尾瀬に生息する動物たち (ニホンジカ)
⑧ 尾瀬の生きもの	⑯ 空から見た大江湿原

9. 企画展示

① 似ているけどちょっと違う植物	⑨ フォトグラフコーナー
② 尾瀬沼周辺の最新情報	⑩ 尾瀬の歩荷
③ 尾瀬に生息する動物たち 標本展示 (ツキノワグマ)	⑪ 来館者コーナー
④ 尾瀬に生息する動物たち ホンドオコジョ・ニホンヤマネ	⑫ 燧ヶ岳ルート案内
⑤ 尾瀬に生息する動物たち (ホンドオコジョ)	⑬ 尾瀬沼ルート案内
⑥ 福島県尾瀬保護調査会調査報告	⑭ ひと昔前の尾瀬
⑦ 尾瀬情報コーナー	⑮ 初夏秋尾瀬の風景
⑧ 書籍・賃料、読書コーナー	⑯ ビジターセンターおすすめスポット

10. 自然情報等のリアルタイムな収集と発信

巡回範囲の尾瀬沼を中心とした地域や会津駒ヶ岳、帝釈山・田代山等の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域については、尾瀬山の鼻VCなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。収集した情報は、VC館内での掲示及び配布、ブログ、Facebook、twitter等のインターネットにより利用者へ

提供しました。また、山小屋や入山口周辺の掲示板や施設、関係機関へは尾瀬山の鼻V C及び財団事務局などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

Ⅲ. 巡回活動の実施

自然情報の収集、歩道の状況確認、美化清掃等を目的に下記区域を巡回しました。

No	巡回区域	頻度(目標)	実施回数
①	尾瀬沼方面	1回/2週	11回
②	大清水方面	1回/2週	12回
③	燧ヶ岳方面	1回/2週	11回
④	沼尻～見晴方面	1回/2週	12回
⑤	燧裏林道方面	1回/2週	10回
⑥	大江湿原・小淵沢田代方面	毎日	172回
⑦	会津駒ヶ岳方面	1回/1月 (7月より)	4回
⑧	帝釈山・田代山方面	1回/1月 (6月より)	5回
⑨	道行沢・御池方面	—	—
⑩	白尾山・皿伏山方面	—	—

Ⅳ. 施設管理及びその他の業務

1. 傷病者発生時の対応 (写真7)

檜枝岐村遭難対策協議会(尾瀬沼地区本部:尾瀬沼ヒュッテ)の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計: 15件(うち、担架搬送1件、ヘリ搬送2件)

2. 危険箇所の掲示

巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて注意喚起看板、またはロープ柵の設置を行いました。また湿原への踏み込み防止のために、必要に応じてロープ柵等の設置を行いました。また、ツキノワグマの出没が頻発した時には、現地に注意喚起看板及びクマ鐘を設置するとともに、関係機関に迅速な情報提供を行いました。

3. 非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施

台風や豪雨等の接近時に、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いました。今シーズンは台風等の接近はなく、被害もありませんでした。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

4. ニホンジカ捕獲業務の補助作業（写真8）

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による反応の有無確認作業やシカセンサーに反応があった場合、現場へ赴いてニホンジカ捕獲の有無を確認、状況報告を行いました。またツキノワグマが錯誤捕獲されている場合も現場確認、状況報告を行い、放獣作業では、安全のために現場周辺を立ち入り禁止にするなどの補助作業を行いました。

V. 尾瀬沼ビジターセンター職員が兼務したその他の事業

1. 尾瀬沼集団施設地区公衆便所清掃等業務

尾瀬沼地区運営協議会から委託を受け、尾瀬沼公衆便所の清掃業務等を行いました。

2. 沼尻地区公衆トイレ施設清掃等業務

檜枝岐村と尾瀬沼地区運営協議会から委託を受け、沼尻公衆トイレの清掃業務等を行いました。

3. 福島県特殊植物等保全事業

尾瀬国立公園植生復元調査等業務（写真9）

福島県地域における尾瀬国立公園植生復元調査等業務として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、シカの食害影響調査等を行いました。

3. 財団自主事業

(1) 尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山峠、滝沢登山口、猿倉登山口）においてボランティア活動支援を行いました。

(2) 外来植物対策事業（写真10）

外来植物オオハンゴンソウの増殖を防ぐために、7月に小沢平口にて関係機関と連携し除去活動を行いました。

(3) 大江湿原シカ侵入防止柵設置及び撤去作業（写真11）

大江湿原へのニホンジカの侵入を防止するために、関係機関と連携して、6月にシカ侵入防止柵の設置作業を行い、10月に撤去作業を行いました。



(写真1)

【自然観察会】

日中、尾瀬を感じるミニツアー等を大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺で実施。

・尾瀬を感じるミニツアー：

毎日 9:00～ 9:45

繁忙期 12:30～13:15

・朝イチ観察会

土日及び祝日 7:30～8:15



(写真2)

【夜のライドショー】

尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

土日及び祝日の前夜

19:00～19:45



(写真3)

【星空観察会】

尾瀬沼ビジターセンター周辺で星空観察会を実施。

天気がよくない時は、レクチャールームにて星空解説を実施。

8月：19:30～20:15

10月：19:00～19:45



(写真4)

【ナイトハイク】

ナイトハイクでは、夜の大江湿原と浅湖湿原を歩き暗闇を体験してもらい、また夜のニホンジカの生態を観察しました。



(写真5)

【トークショー】

歩荷さんをお呼びして「尾瀬の大切な歩荷さんを知っていますか」を実施。

9月14日(日) 19:00~19:45



(写真6)

【見晴イベント】

見晴地区でナイトハイクまたはスライドショーを実施。

毎月2回 19:00~19:45



(写真7)

【傷病者発生時の対応】

傷病者を防災ヘリコプターのところまで担架搬送したり周辺の木道を通り止めにしたりするなどの補助作業を実施。

(大江湿原)



(写真8)

【ニホンジカ捕獲業務の補助】

シカセンサーに反応があり、現場でシカ捕獲を確認した後、環境省担当官に報告。

(大江湿原周辺)



(写真9)

【福島県植生復元調査】

調査杭の引き起こし作業を実施。(見晴地区)



(写真10)

【外来植物駆除】

小沢平口付近にて、関係者と協力して外来植物オオハンゴンソウの駆除作業を実施。

(小沢平口付近)



(写真11)

【シカ侵入防止柵設置】

関係機関と協力してシカ侵入防止柵を設置。

(大江湿原周辺)

尾瀬自然解説ガイド

～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

所定のコースを案内し、自然解説を行うためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。尾瀬ボランティアとしても活動するガイドが、ビジターセンターを起点・終点として案内を行い、参加料は1人当たり1,000円～3,000円です。この参加料金は、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数(人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
H18	240	190	50
H19	252	245	7
H20	452	448	4
H21	294	290	4
H22	292	292 (内尾瀬学校は 113)	0
H23	239	197 (内尾瀬学校は 135)	42
H24	642	450 (内尾瀬学校は 372)	192
H25	890	633 (内尾瀬学校は 558)	257 (内環境学習は 255)
H26	155	155 (内尾瀬学校は 122)	—
H27	487	477 (内尾瀬学校は 415)	10
H28	379	322 (内尾瀬学校は 256)	57
H29	458	444 (内尾瀬学校は 321)	14
H30	355	341 (内尾瀬学校は 194)	14
R1	274	263 (内尾瀬学校は 151)	11
R2	16	16 (内尾瀬学校は 16)	0
R3	covid-19 感染拡大防止のため、中止		
R4	4	4	0
R5	9	6	3
R6	31	28	3
R7	34	33	1

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド認定を行っています。現在15名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既認定者対象の技術研修を実施したりするなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。

ビジターセンター利用者みなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします。

一般の方から寄せられた声
～ビジターセンターに寄せられた声から～

尾瀬山の鼻ビジターセンター抜粋

○尾瀬に来た感想

- 水の中のミズバショウが美しかったです。池塘に映し出される山々が水の清らかさを表していました。
- 雨の多い尾瀬で、なぜ弁当を食べられる場所が少ない？もっと増やしてほしい。
- 久しぶりの尾瀬でゆっくり過ごせました。花の名前覚えるのが大変です。説明を聞きながら私の意見として一人入山料を 1000 円でも取ったらと思いますが。
- 木道の傷んでいるのに心が痛みました。富士山みたいに入山料金 3000 円くらい取るようにしたらと強く思います。お世話になりました。楽しかったです。
- 尾瀬の自然を後世に残してほしいと思います。
- シカが増えて尾瀬の自然が変わってしまうのは困ります。私たちができることは何ですか。温暖化防止活動ですか？シカ対策に取り組まれていることに感謝します。
- 初めて来て、ビジターセンター横の木の上にクマがいて驚きました、木道を歩くのはとても楽しく、また来ます。
- 尾瀬に住む生き物を知ることができました。シカ、クマなど撃つことでしか共生はできないのでしょうか。考えさせられました。尾瀬の道とても素敵でした。

○ビジターセンターのスライドレクチャーに参加して

- 内容は簡単だったが初めて知る内容が多く、とても勉強になった。
- 花や草木を登山中に見つきたいと思いました！ とっても面白くためになりました！
- さまざまな内容が含まれていて楽しくてあっという間の時間でした。
- 浄化槽の仕組み、水場がとても綺麗で豊富だったのでどうなっているのかと、思っていたが理解できた。動物、草花の話とても興味深かった。靴踏み込むと 10 年分のダメージ、心に残った。これからも尾瀬の保護活動を応援しています。
- オコジョ発見証明書がほしい。
- 尾瀬ヶ原に 1800 個あるという池塘の話がおもしろかった。ゴミ持ち帰り運動発祥の地というのも心に刺さりました。尾瀬の環境保護、素晴らしい取り組みです。
- ツキノワグマとミズバショウの関係が勉強になった。
- 白虹をみてみたい。
- ゴミ持ち帰り運動の取り組みに感謝します。今後共、この活動の定着とご活躍を祈念いたします。
- 尾瀬の位置がよく分かっていなかったのがよく分かった。今日から 2 泊で来たけど、初日に聞けてよかった。

尾瀬沼ビジターセンター抜粋

○展示室を見て

- 遊んだり、パンフレットなどを見て楽しかった。
- 荷物をロッカーにおいてゆっくり見られる。散策で目に付き気になっていた虫や植物の名前が分かりとても楽しい。
- 様々な剥製と写真で尾瀬の自然を身近に感じることができました。
- スタンプがもっともっといっぱいあってもいい。

○ミニツアーに参加して

- ワンパターンではなく対話形式の説明で興味が惹かれた。
- ちょっとした奥にきれいな花が咲いていて宝探しのようでした。
- 昨日スライド上映を見たので実際に実物を見て更におもしろかった。
- いつも登っただけなので、今回みたいにゆっくり説明も聞けて良かったです。
- 歴史、地理、環境、植物、動物、水の流れなど幅広く知れて良かったです。
- 尾瀬のすばらしさをもっと知りたいと思った。

○夜のスライドショーに参加して

- 尾瀬についての知識が深まってより明日の散策が楽しみになりました。
- 尾瀬の自然は自分も含めて訪れる人、山小屋や整備をしてくれる人、いろんな人のおかげだと強く感じた。
- 今までとは異なった内容で良かったです。尾瀬に来たら毎回参加したいと思います。
- スライドがたいへん見やすい。
- クマがミズバショウの繁殖に貢献しているという話が興味深かったです。
- お話の内容が今日の散策の答え合わせのようで楽しかったです。尾瀬の可愛らしいアイドル達の動画が印象的でした。歩道の歩き方のレクチャーもよかったです。

○歩荷さんトークショーに参加して

- 参加者とのやり取りが面白い。
- 実際に背負子を背負う体験ができた。
- 年一回と言わず、もう少し回数を増やしてもいいような。多忙ですかね。
- 萩原さんの説明がわかりやすかった。
- 五十嵐さんの人柄がよかった。
- 重さではなく、必要な荷物を背負って歩くのが歩荷さんというのが素敵でした。楽しかったです。

○星空観察会に参加して

- 凄く長い時間流れ星が見えた。天の川が見えた。
- 尾瀬でこんなにきれいな空が見られると思いませんでした。
- あいにくの天候でしたが、思っていた以上に星が見られて楽しかったです。
- 流れ星が見えた。夜の空は思ったより明るい。
- 実際の夜空を見ながら解説して貰えて良かった。
- 真っ黒な環境がおもしろかった。

巻末資料 1

令和7年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例

発生場所	状況・対応内容
鳩待峠～山ノ鼻	木道上の転倒により足首骨折の疑い。固定と冷却後 救助要請(へり)。
尾瀬ヶ原	木道上の転倒により出血。右目上腫れ、吐き気あり、止血 救助要請(へり)。
山の鼻ビジターセンター前	木道上の転倒により大腿骨骨折疑い。腰固定、担架搬送 救助要請(へり)。
鳩待峠～山ノ鼻の石階段	歩道上の転倒により両膝打撲、腰部痛み 救助要請(へり)。
山ノ鼻公衆トイレ前階段	転倒により左肩骨折疑い 救助要請(へり)。
牛首付近	疲労、低体温、胃痛。毛布、カイロの貸与、休息後自力下山。

山の鼻V Cでの傷病対応件数 38 件

尾瀬沼ビジターセンター対応事例

発生場所	対応内容
白砂湿原～沼尻	木道上の転倒により脊柱管圧迫骨折。救助要請(へり)
沼山峠～大江湿原	木道上の転倒により左手首骨折疑い。固定、冷却。自力下山。
長蔵小屋	持病による動悸。バイタル測定、処方薬を服薬し安静。翌朝回復し自力下山
沼尻～尾瀬沼(尾瀬沼北岸)	木道上の転倒により右足首骨折疑い。救助要請(へり)
沼山峠～大江湿原	疲労、低体温により行動不能。毛布で保温しヒュッテへ担架搬送。翌日回復し自力下山。

尾瀬沼V Cでの傷病対応件数 15 件

－ 令和 7 年度 尾瀬のできごとをふりかえる －

多めの積雪で幕を開けた 7 年度シーズンは花の良い年になりました。

山ノ鼻に位置する研究見本園では、令和 2 年秋に設置された植生保護柵を、春の設置時、秋の撤去時に企業ボランティアのみなさまと尾瀬ボランティアのみなさまにご協力いただきました。

ミズバショウの結実時期である夏にはツキノワグマが頻繁に出没することから、安全のために 7 月から 8 月上旬まで研究見本園の外周部を閉鎖しました。

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)	
4 月	14 開設準備のため上山(除雪作業) 18 鳩待線開通 山の鼻公衆トイレ供用開始 18 至仏山残雪期利用期間開始	4 月	
5 月	7 至仏山閉鎖 7-8 管理員研修(県庁) 9 上山 10 沼尻川橋板設置、注意看板設置 11 ツキノワグマ研修(山 VC、群馬県、環境省) 13 開所式(至仏山荘、山の鼻小屋、龍宮小屋、群馬県、尾瀬ボラ、環境省) 遭難救助関係者打合せ(片品村、谷川岳警備隊、利根沼田東消防署) 14 ヘリコプター物資運搬 16 八木沢橋損壊のため通行不可 18 第一ベンチ立入り防止柵設置 22-23 研究見本園植生保護柵設置(22 日から 2 日間)	5 月	7-8 管理員研修(県庁) 9 上山 10 自衛消防訓練実施 11 ツキノワグマ研修(山 VC) 12 ビジターセンター開所 13-14 ヘリコプター物資運搬 21 尾瀬沼展望デッキ柵設置、水場設置 22 ナデッキ注意看板設置 24 御池～沼山峠シャトルバス運行開始 30 尾瀬山開き(奥只見) 31 沼尻公衆トイレ共用開始
6 月	4 シラネアオイ保護柵設置 7-8 轟音玉講習受講	6 月	1 管理員研修(那須平成の森) 6 沼山峠ボランティアハウス設置 轟音玉講習受講 13 見晴イベント(第 1 回) 14 大清水～一ノ瀬シャトルバス運行開

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)	尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)
<p>17 至仏山当面登山道立ち入り防止柵設置作業</p> <p>19 鳩待～山ノ鼻間蛇籠斜面直下の清掃</p> <p>24 消防設備法定点検</p> <p>30 至仏山閉鎖解除 研究見本園中通付近クマ出沒により一時閉鎖</p>	<p>始</p> <p>22 早起き野鳥観察会</p> <p>23 消防署立入検査</p> <p>24 大江湿原シカ柵設置</p> <p>27 見晴イベント (第2回)</p> <p>30 管理員研修 (那須平成の森)</p>
<p>7月</p> <p>1 研究見本園閉鎖解除(クマ)</p> <p>8 研究見本園至仏側入り口周辺刈り払い</p> <p>10 消防訓練実施</p> <p>14 テンマ沢湿原、研究見本園入口付近のミズバショウ果穂刈取り、外周部中通り刈り払い(ツキノワグマ対策)</p> <p>16 研究見本園外周部通行止め(クマ対策)</p> <p>18 笠ヶ岳登山道立ち入り防止柵設置</p> <p>27 鳩待～山ノ鼻間停電(4時間)津奈木付近断線</p> <p>29 消防署立入検査</p> <p>30 ヘリ物資運搬</p> <p>31 長沢新道通行止め解除</p>	<p>7月</p> <p>3 シカ罨センサー確認開始</p> <p>5 会津駒ヶ岳夏山開き</p> <p>6 燧ヶ岳夏山開き</p> <p>11 見晴イベント (第3回)</p> <p>13 沼山峠入山口啓発</p> <p>17 シカ罨センサー確認中断</p> <p>18 見晴イベント (第4回)</p> <p>26 オオハンゴンソウ駆除作業 (小沢平)</p>
<p>8月</p> <p>4 ツキノワグマによるミズバショウ果穂の採食活発化</p> <p>5 研究見本園内外周、至仏山側の笹、葎の刈り払い実施(クマ対策)</p> <p>15 研究見本園のミズバショウの果穂はほぼ食べつくされる</p>	<p>8月</p> <p>4 釜ヶ堀湿原にクマ鐘設置</p> <p>5 大江湿原にクマ鐘設置</p> <p>8 見晴イベント (第5回)</p> <p>19 ヘリコプター物資運搬</p> <p>22 見晴イベント (第6回)</p> <p>24 ありがとう尾瀬清掃活動</p>

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)	
28	山ノ鼻キャンプ場閉鎖(ツキノワグマ対策)※採食がシウリザクラに移行		
9月		9月	
		2	シカ罨センサー確認再開
		5	見晴イベント(第7回)
10	テンカラ～山ノ鼻間刈り払い(ツキノワグマ対策)		
12	十二山神祭(山の鼻小屋、尾瀬ロッジ、至仏山荘、龍宮小屋)		
13	研究見本園閉鎖解除 山ノ鼻キャンプ場閉鎖解除		
14	植生保護柵にシカ絡まり	14	歩荷イベント(トークショー)
15	ミズナラにクマ柵確認		
		21	クマ錯誤捕獲による放獣補助
		22	自衛消防訓練実施
		26	福島植生調査 見晴イベント(第8回)
28	ありがとう尾瀬清掃活動		
10月		10月	
2	消防設備法定点検		
		3	見晴イベント(第9回) 丈堀清掃
8	研究見本園クマ鐘撤去	8	ありがとう尾瀬清掃活動
		9	クマ錯誤捕獲による放獣補助
13	シラネアオイ保護柵撤去 テンマ沢湿原クマ鐘撤去 公衆トイレ閉鎖(女子9基)		
15	笠ヶ岳植生保護柵撤去	15	ボラハウス撤去
16	ありがとう尾瀬清掃活動		
17	研究見本園植生保護柵撤去	17	群馬県知事視察 見晴イベント(第10回)
18	レクチャールーム閉鎖		
20	至仏山東面登山道柵撤去 オーニング撤去・清掃 VC開館時間7:30～15:00に変更		
22	ヘリ運搬(燃料、産廃)	21	ヘリコプター物資運搬
23	立入り防止柵撤去(川上川橋、VC周辺)	23	シカ罨撤去によりセンサー確認終了
		25	大江湿原シカ柵撤去
26	公衆トイレ女子側閉鎖		

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)	尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)
<p>八木沢道看板撤去 見晴沼尻川橋板撤去</p> <p>28 公衆電話撤去及び衛星アンテナ移設</p> <p>29 水源地中間バックフィルター清掃</p> <p>31 気象装置撤去 KDDI電源切断作業 ビジターセンター閉所</p>	<p>31 釜ッ堀、大江湿原クマ鐘撤去 尾瀬沼展望デッキ柵撤去 尾瀬沼ビジターセンター閉所</p>
<p>1 1 月</p> <p>1 管理員下山</p> <p>5 全閉鎖下山、戸倉～鳩待峠間の冬期閉鎖</p> <p>27-28 第一回冬期調査</p> <p>3月 第二回冬期調査</p>	<p>1 1 月</p> <p>1 管理員下山</p>

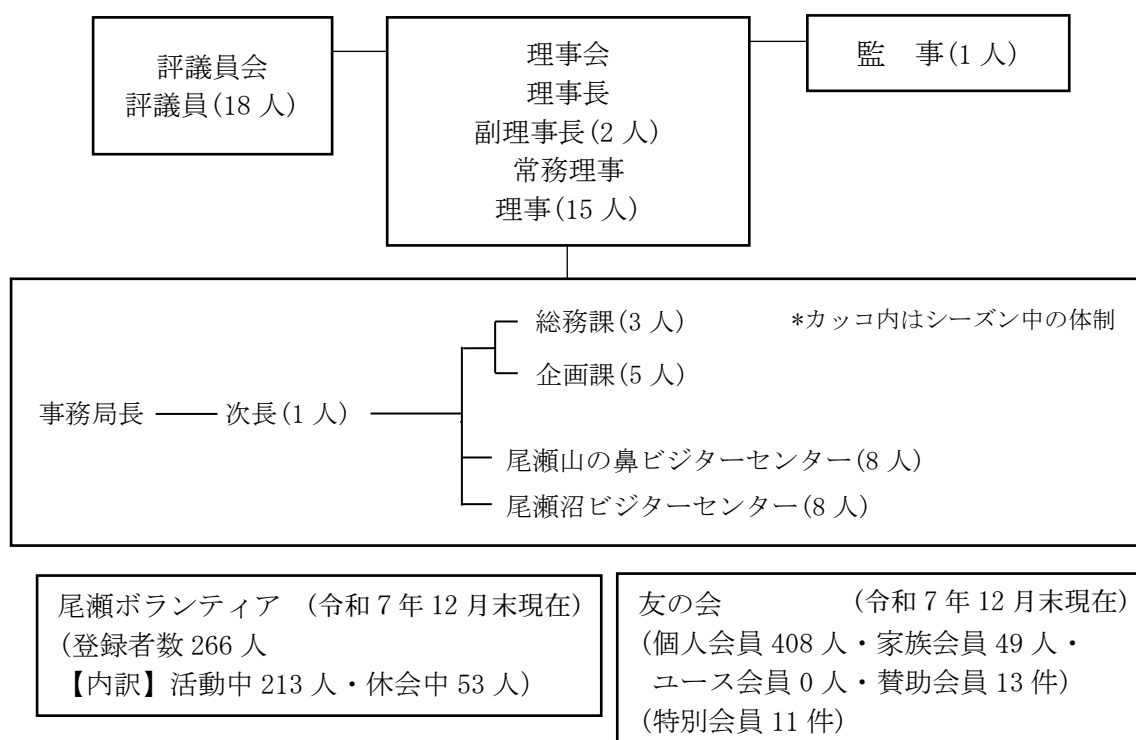
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会(東京都内)
〃 8 月 3 日	財団設立、第 1 回理事会(尾瀬沼ヒュッテ) 群馬県大友庁舎(前橋市大友町)に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始(環境庁から受託)
〃 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始(群馬県から受託)
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル(前橋市大渡町)に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定(財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後 2 年毎に認定を更新)
〃 9 月 3 日	群馬県庁(前橋市大手町)に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・ 設立日 平成 7 年 8 月 3 日
- ・ 基本財産 約 15.0 億円(令和 6 年度末現在)
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究事業など
- ・ 組織体制



施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2 階建 延床面積 344 m² 平成 5 年築
展示室 69 m² レクチャールーム 80 m² 事務室 17 m²
- ・ 尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨造 2 階建 延床面積 676 m² 令和 2 年築
常設展示室 108 m² 企画展示室 50 m² レクチャールーム 49 m²
事務室・会議室 95 m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの令和7年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・ 施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
- ・ 停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては補正していません。

その他

- ・ 比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。
- ・ 本文中に「VC」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

令和7年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

令和8年3月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

公益財団法人 尾瀬保護財団

Tel (027)220-4431

fax (027)220-4421

ホームページアドレス <https://oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

— お問い合わせは —
公益財団法人 尾瀬保護財団
 〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
 TEL 027-220-4431
 FAX 027-220-4421
 E-mail : info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを開催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください

窓口	展示
スタッフが尾瀬のことにお答えします 窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00	尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。 開館時間 山の鼻 VC 7:00～16:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00
尾瀬情報	ビデオ上映
花の見頃や登山道の様子が随時更新されています。 お出かけの前にチェックしてみてください。 尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。 URL https://www.oze-fnd.or.jp/	尾瀬のビデオが上映されています。 山の鼻ビジターセンターで上映 「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分) 「尾瀬はふるさと一空を渡る生き物たち」(10分) 尾瀬沼ビジターセンターで上映 「尾瀬国立公園の四季」(16分) 「尾瀬沼の四季」(13分) *ほかにもさまざまなビデオがあります。
ハイキングガイド	
レベルに応じた登山マップや、尾瀬のマナー・魅力などを紹介しています。情報量が豊富で魅力的なリーフレットです。持ち運びも楽なので、こちらで尾瀬の理解を深めてください。 ※協力金をお願いしています。	
自然観察会	スライドショー
一緒に湿原へ出てみましょう！ 周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。 山の鼻 VC 7:15～8:00, 尾瀬沼 VC 9:00～ 9:45 (繁忙期) 12:30～13:15 等 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。	スライドを聞きながら尾瀬を理解する 「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。 土日祭日の前夜 山の鼻 VC : 18:00～18:45 尾瀬沼 VC: 19:00～19:45 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。
企画展示	
尾瀬を深く知るための特別展示です。 ※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。	
尾瀬自然解説ガイド	団体レクチャー
実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします (コース限定、有料、要予約)。 ※ 開催日についてはお問い合わせください。	グループで尾瀬を学びたい、案内して欲しいなど、事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています(要予約)。
お話しボランティア	その他イベント (尾瀬沼 VC にて実施)
平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。 ※開催時期や内容についてはお問い合わせください。	星空観察会やナイトハイクなどの他に専門家をお招きして、より深く専門性の高いイベントも実施しています。 ※開催時期についてはお問い合わせください。

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。